

一般公開が
始まります

チーターの子どもたち

動物公園では、6月8日にチーターが6頭の子どもを出産し、今月から一般公開が始まります。この時期しか見られない貴重な姿を、お楽しみください。

動物公園 ☎252-1111 FAX255-7116



6頭の子どもたち

チーターは一度の出産で平均2~4頭の子どもを産むといわれていますが、今回出産したのは6頭。とても珍しいことです。



お母さん

ノルウェー出身の「ズラヤ」(5歳)。とても面倒見がよく、6頭にたくさんの愛情をそそいでいます。



🐾 ここに注目

チーターの子どもには、生後4カ月くらいまで銀色のタテガミが生えます。このタテガミが見られるのはこの時期だけです。

銀色の
タテガミ



お母さんに甘える様子やきょうだいのじゃれ合いが見られるのも、この時期だけかも?!

一般公開

- 公開日時 9月27日(月)以降の毎週月・木曜日（祝日を除く）
15:15~16:15
- 公開場所 動物公園チーター展示場
- 注意事項 チーターの体調や天候により、変更になる場合があります。
詳しくは、[千葉市動物公園](#)

動物公園のツイッターでは、チーター親子の様子を写真や動画で紹介！動物たちの素顔も伝えています。ぜひ、チェックしてください。



学芸員が選ぶ

今月のイッピン

歌川派《猫と雨傘》 寛政~文化期（1789~1818年）紙本墨画淡彩 1幅

着物を身に着けて踊る猫たちの姿が、躍動感たっぷりに描かれています。表情や仕草はまるで人間のようですが、前足やふさふさのしっぽ、軽やかな身のこなしといった猫のチャームポイントもしっかりと盛り込んだ、可愛らしくユーモラスな作品です。



この猫たちは、「猫じゃ猫じゃとおしゃますが、猫が、猫が下駄はいて杖ついてしぼりの浴衣で来るものか」という流行り歌にヒントを得て描かれたものと考えられています。石見国津和野（現島根県津和野市）藩主亀井家の江戸屋敷に10図まとまって伝来したうちの1図で、現在は掛軸装に仕立ててありますが、もとは未表装で紙のままの状態でした。大きさや形態、紙継の特殊さから下絵の可能性もありますが、完成度が高いことから、祭礼時に大型の灯籠に貼って用いる灯籠絵の一種と考えることもできます。

「江戸絵画と笑おう 明治の戯画も大活躍！」展では、美術の中の「笑い」をキーワードに、楽しく親しみやすい作品を多数紹介しています。ぜひ、お子さんと一緒にお楽しみください。



江戸絵画と笑おう展（~9月20日祝）にて展示中。ご覧ください！

松岡学芸員

市美術館 ☎221-2311 FAX221-2316



温故知新

千葉を知る

二十七、リニューアルした千葉市美術館とさや堂ホール

千葉市美術館は、近世から近代の日本絵画と版画、1945年以降の現代美術、千葉市を中心とした房総ゆかりの作品の3つを軸にした作品収集と展示活動を大きな柱とし、1995年に開館しました。

建物は、1945年の千葉空襲による消失を免れた旧川崎銀行千葉支店の建物を、新ビルで覆うようにする「さや堂」方式を用いて建築されました。8本の円柱が並ぶネオルネサンス様式の重厚感あるさや堂ホールは市の有形文化財に指定され、展示会やコンサート会場としても使用されています。



石井篤氏撮影

さや堂ホール

1995年の開館記念展「喜多川歌麿展」には5万人以上の来館者が訪れ、2001年の「現代根付展」では、高円宮家コレクションを展示し、高円宮両殿下も来館されました。今年1月の「田中一村展 千葉市美術館収蔵全作品」の会期中に、総入館者数300万人を達成しました。



栗原論氏撮影

つくりかけラボ

開館25周年を迎えた2020年7月、中央区役所の移転に伴い、建物すべてを美術館としてリニューアルオープンし、1万点以上の所蔵作品のハイライトを紹介する常設展示室のほか、参加・体験型のアトリエや美術書がそろふ図書室など、いつでも誰でも美術に触れ合える空間が増えています。

この秋、芸術鑑賞とともに多彩な活動に参加してみたいでしょうか。

都市アイデンティティ推進課 ☎245-5660 FAX245-5476